

高校運動部活動活性化に向けた魅力の再発信  
～中体連と高体連が連携して実施したアンケート調査結果から～

富山県高等学校体育連盟 研究部

富山県立富山いずみ高等学校 荒城 正人

1 はじめに

富山県高等学校体育連盟研究部は、34の競技専門部から各1名派遣された研究員で構成され、年に4～5部会を開催し調査研究を行っている。平成23年度から、最近は「競技力向上」「安全と健康」「部活動の活性化」の3つのテーマ別の分科会を持ち、3ヵ年計画で調査研究を進めてきた。

「部活動の活性化」の分科会では、これまでも様々なテーマを設定し調査研究を進めてきた。どの高校や専門部でも共通の課題となっていたのが、部員不足、生徒の部活動離れ、指導者不足・高齢化、7限授業等での活動時間の減少等などであった。

部員不足・部活動離れについては、少子化が大きな原因であるが、運動部活動それ自体にも課題があるのではないかとの疑問が研究部員の中からでてきた。このため、前回の平成19年度から平成21年度の3ヵ年この分科会で調査研究した、テーマ；運動部活動の「魅力 ～一人一人が満足感・充実感を味わえる取り組み～」の研究成果を踏まえたうえ、新たな調査方法をも加えながら今回の調査研究を進めてきた。

特に、運動部活動の所属率が中学から高校にかけて大きく低下することや、中学生と高校生の運動部活動に対する意識に違いがあることなどが解明でき、高校における運動部活動の「魅力」を再発信できればと考えている。

2 研究の方法、実施時期及び対象

今回の調査研究では、課題解決に迫るため、富山県中学校体育連盟研究部の皆様の協力を得て、同一の生徒の中学3年次と高校1年次の実態・意識等の違いをアンケート調査してきた。

(1) 質問紙によるアンケート調査（無記名方式）

(2) 実施時期 1回目 平成23年10月～11月・・・中学3年時  
2回目 平成24年10月～11月・・・高校1年時

(3) 調査対象

1回目・・・中学校体育連盟の研究部員所属の学校の全3年生  
入善・鷹施・魚津・魚津東部・滑川・雄山・大泉・山田・八尾・奈古・射北・高陵  
牧野・西條・津沢・出町・城端 16校 1973人（男子988人、女子985人）

2回目・・・進学した高校で上記の生徒。

県立高校43校、私立高校11校、支援学校10校、高等専門学校2校

3 結果

1回目

回収校 16校

回収数 男子918人（回収率92.9%）女子903人（回収率91.7%）

全体回収数 1821人（回収率92.3%）

2回目

回収校 56校

（県立高校43/43、私立高校9/11、支援学校3/10、高等専門学校1/2）

回収数 男子894人（回収率90.5%）、女子920人（回収率93.4%）

全体回収数 1814人 全体回収率 91.9%（全中学3年生比）

4 考察

(1) 中学3年生アンケートより

図1 中学3年時の部活動所属率

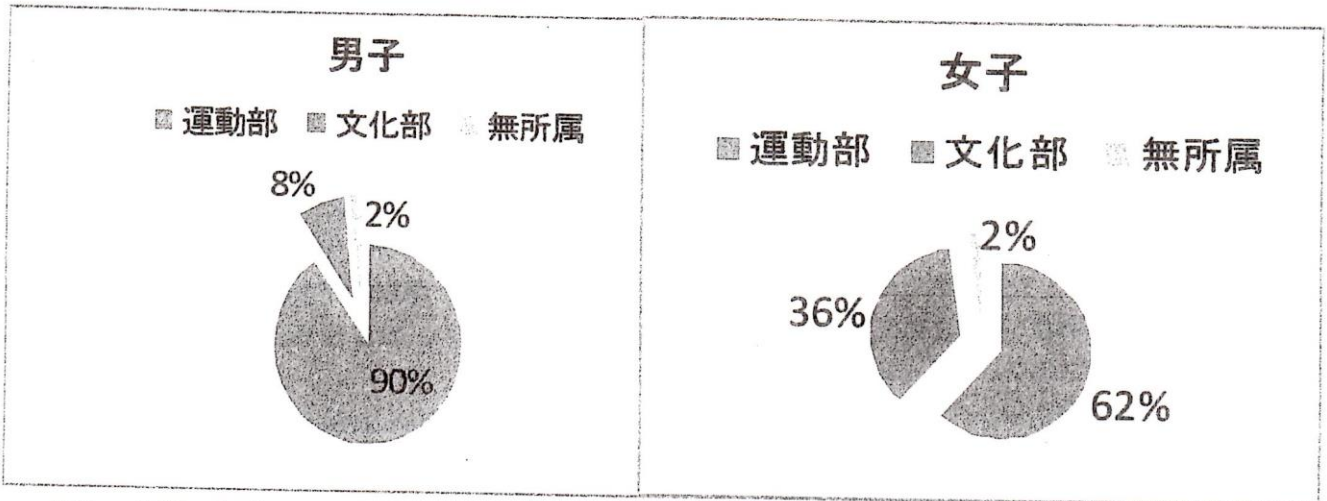


図2 中学3年時での運動部員の高校入学後の部活動入部意志

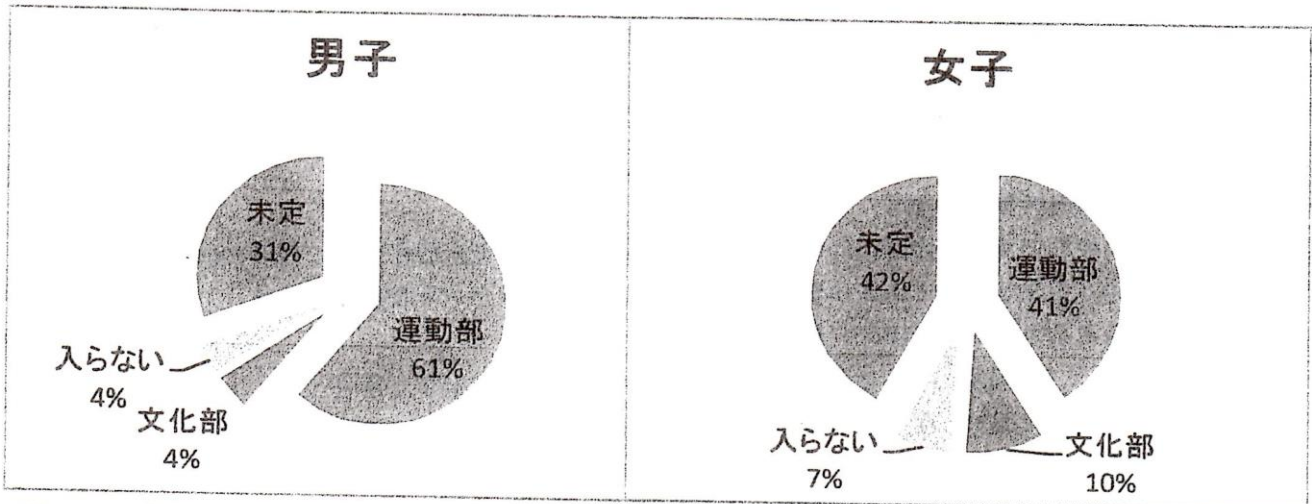


表1 中学時運動部員が高校入学後の入部意志で「入らない」と回答した理由（上位3つ）

	男子（27人中）	女子（35人中）
遊ぶ時間がほしい	10 (37.0%)	8 (22.9%)
勉強に集中	5 (18.5%)	6 (17.1%)
中学でやりつくした	4 (14.8%)	5 (14.3%)

中学生の部活動所属率は高く、男子98%女子が98%である。運動部所属率は、男子90%女子62%で男子が高い。女子は文化部所属率が36%と高い。運動部員の高校入学後の入部意志から、男子の「運動を継続したい」が61%と高い。女子では「運動を継続したい」が41%である。

中学時運動部員が高校入学後に部活動に「入らない」は、男子4%、女子7%である。理由は、「遊ぶ時間が欲しい」・「勉強に集中」・「中学でやり尽くした」の順で男女とも上位の3つである。

部活動離れが叫ばれるが、中学校では殆どの生徒が運動部か文化部に所属している。



(2) 高校1年生アンケートより

図3 高校1年時の部活動所属率

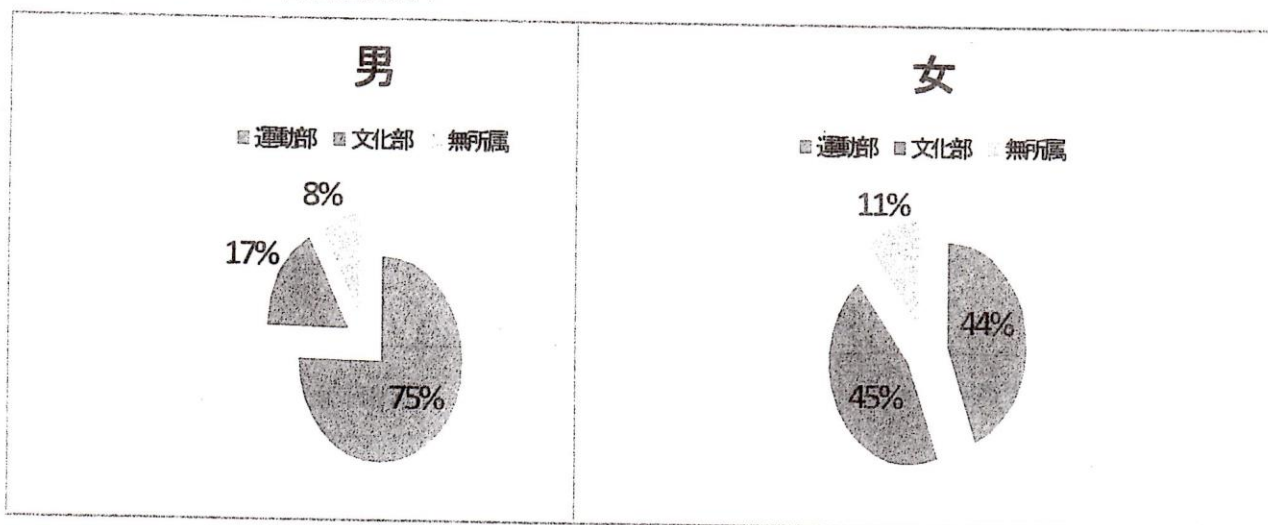


図4 中学時運動部員の高校1年時の部活動所属率

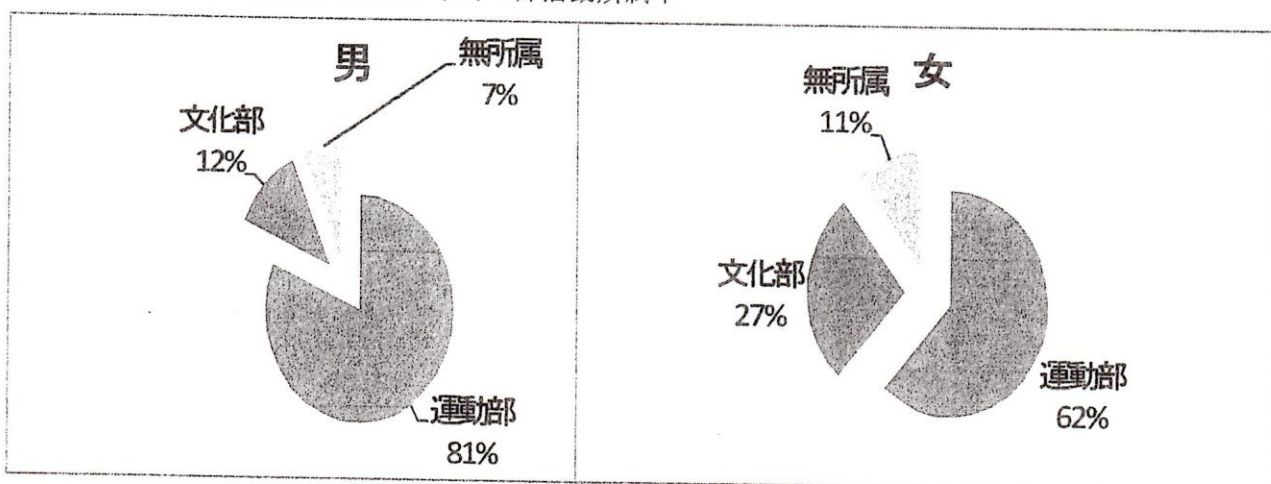


表2 中学時運動部員が高校で運動部に入部しなかった理由（複数回答可）上位3つ

	男子（145人）	女子（214人）
入りたい部がなかった	46（19%）	71（22%）
文化部入りたかった	40（17%）	70（21%）
運動が苦手だから	40（17%）	
中学でやり尽くした		46（14%）

部活動所属率は、男子92%女子89%で男子の方が高くなった。女子では、文化部所属率（45%）が運動部所属率（44%）を上回った。無所属は、男子8%、女子11%で、女子は中学時（3%）より大きく増加した。中学時運動部員の運動部の継続率は、男子81%女子62%である。女子では文化部への移動が多くなっている。中学時運動部員が高校で運動部に入部しなかった理由は、「入りたい部がなかった」「文化部に入りたかった」の順で男女とも1・2位である。

女子に部活動離れが見られる。運動部活動離れの一因は、高校の部活動の設置の仕方にあると考える。

表3 運動部所属率と継続率

	運動部所属率		継続率
	男子	女子	
全国 H22	74.8	54.5	(72.9)
	52.9	26.0	(49.1)
今回	90.2 → 75.1	61.7 → 44.1	<83.3>
	61.7 → 44.1		<71.5>
	男子運動部 →	運動部 文化部 無所属	81.3 12.0 6.7
	女子運動部 →	運動部 文化部 無所属	61.7 27.5 10.5
	男子文化部 →	運動部 文化部 無所属	22.1 59.7 18.2
	女子文化部 →	運動部 文化部 無所属	16.8 73.8 9.5

※( )は年度の数字を用いた数字上の継続率。

※< >は数字上の継続率。

運動部所属率が男女とも中学から高校にかけて低くなる。特に女子の低下が大きい。

今回中学3年時と高校1年時に同じ生徒を対象に追跡アンケート調査を実施し、継続率を算出した。男子では、運動部の継続率が高く81.3%である。女子では、文化部の継続率が高く73.8%である。

逆に無所属への移行では、男子は文化部からが18.2%、女子は運動部からが10.5%である。

表4 種目別継続率(※中学時30人以上の種目)

男子	種目	継続率	女子	種目	継続率
	バスケットボール	62.3		バスケットボール	64.5
	サッカー	60.0		陸上競技	40.9
	バドミントン	59.7		バドミントン	38.6
	バレーボール	56.3		バレーボール	35.4
	陸上競技	50.8		ソフトテニス	32.6
	野球	50.0		卓球	32.4
	ソフトテニス	48.8		剣道	28.9
	剣道	42.9		ソフトボール	19.2
	ハンドボール	38.7			
	卓球	37.3			
	柔道	30.0			
	地域クラブ	9.3			

種目別の継続率では、男子ではバスケットボールが高く63.6%である。他にサッカー、バドミントン、バレーボール、陸上競技が50%以上である。女子ではバスケットボールが高く64.5%である。それ以外の種目は低い。

公立の全日制高校における運動部の設置状況は、男子のバスケットボール(34/38校)サッカー(34/38校)バドミントン(31/38校)、女子のバスケットボール(33/38校)陸上競技(32/38校)及びバドミントン(31/38校)が高い設置率である。

一方、男子の柔道(15/38校)及び女子のソフトボール(14/38校)については設置率が低い。概ね種目の設置状況と継続率は相関関係があり、設置状況が良ければ、種目の継続率は高まると思われる。



図5 高校部活動のイメージ ※中学3年生アンケートより（複数回答可）

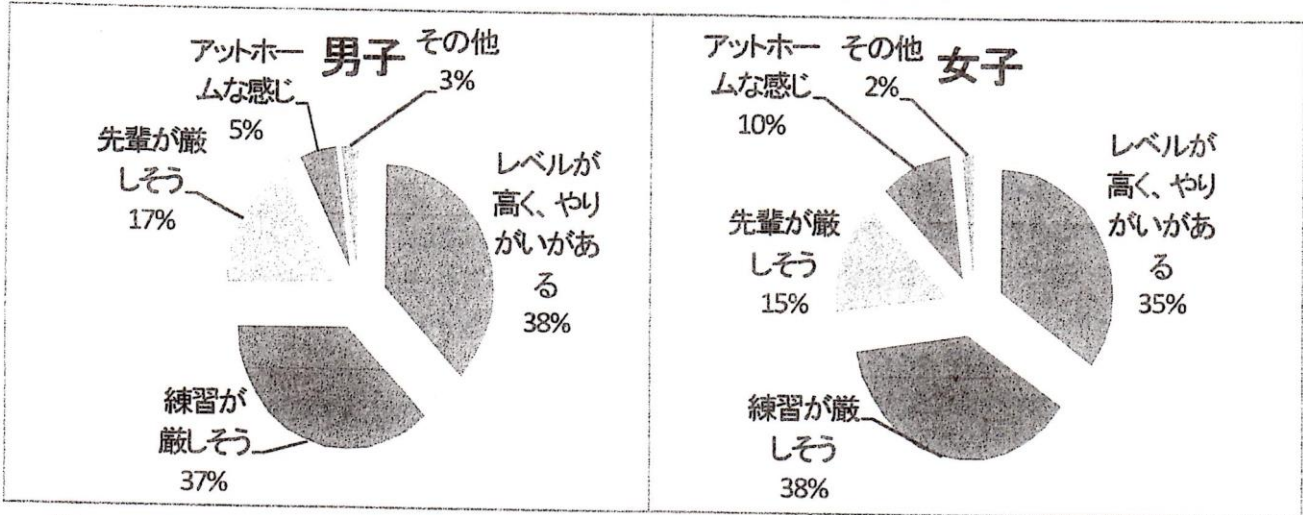


図6 中学と高校の運動部活動の実際 ※高校生1年時アンケートから

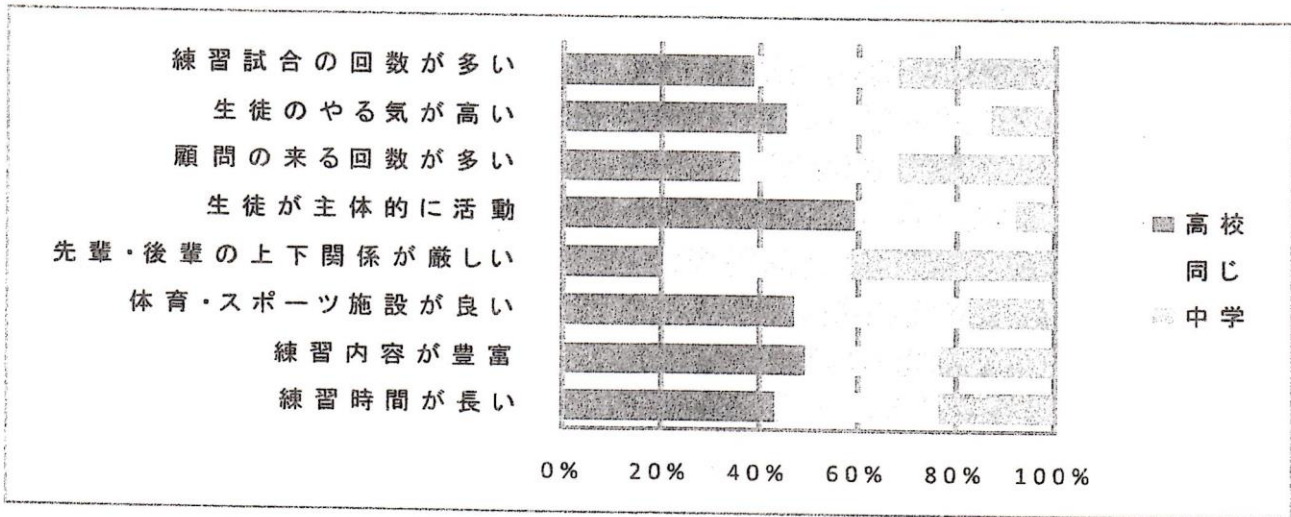
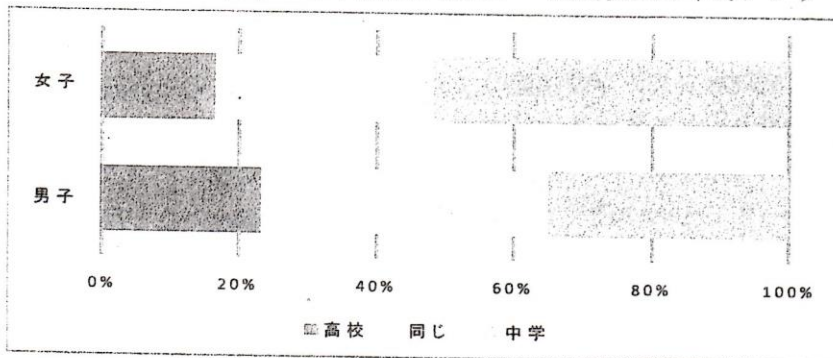


図7 先輩・後輩の上下関係が厳しい ※高校生1年時アンケートから



中学3年時の高校の部活動のイメージは、男女とも「レベルが高くやりがいがある」と肯定的にとらえている。一方「練習が厳しそう」ともとらえている。先輩・後輩の上下関係では男女とも「厳しい」が「アットホーム」を上回った。

実際、高校に入学してからの運動部活動の実感では、「練習時間が長

く」「練習内容が豊富」「体育・スポーツ施設が良く」が中学より上回った。中学より良い環境・高いレベルで活動がなされいると考える。顧問の顔出しの頻度は、中学と高校では差はない。しかし高校では、生徒のやる気が高く主体的に運動部活動を行っている。先輩・後輩の上下関係は、中学ほど高校は厳しくない。特に女子では、比較的「アットホーム」で「フレンドシップ」な人間関係が構築されていると考える。



## 5 まとめ

中学の部活動所属率は男子98%女子98%と高く、ほとんどの生徒が運動部か文化部に所属している。高校の部活動所属率は中学より低下するが男子92%女子89%と高い。中学の運動部活動所属率は男子90%女子62%で、高校は男子75%女子44%である。運動部活動の所属率が低下する原因は、無所属への移動よりは文化部への移動が大きい。特に女子では運動部から文化部への移動が多く、中学時と比べ所属率が逆転する。

中学時運動部員が高校入学時に運動部に入らなかった理由の1位は男女で「入りたい部がなかった」であった。少子化によって生徒数が減り学校規模が以前に比べて小さくなり、設置できる部活動数が限られてきており、生徒のニーズに応じ切れていないことが裏打ちされた。女子の設置数が男子に比べ少なく、大きな低下の原因になっている。

次に中学時運動部員が高校入学時に運動部に入らなかった理由の2位は男女で「文化部に入りたかった」であった。実際に中学時運動部員が高校時文化部への移動は男子12.0%女子27.5%である。一方、中学時文化部員が高校時運動部への移動は男子22.1%女子16.8%である。このことから他分野への移動は、一部生徒が持つ一般的な行動現象と言える。しかし、中学時の運動部の所属人数が文化部に比べ圧倒的に多いため、人数では運動部から文化部への移動人数が多くなっている。

中学部活動と高校部活動の継続率では、男子運動部81.3%と最も高く、次に女子文化部73.8%である。無所属への移行では男子文化部18.2%、次に女子運動部10.5%である。このことから「男子は運動部、女子は文化部」の適性や固定観念があり、運動部には男子にマッチした環境、文化部には女子にマッチした環境があるものと考えられる。

これらのことから、高校運動部の所属率を高める方策は、各学校の運動部の設置数を増やすことである。中学校で活動していた部が高校にもあり継続できる。また「新しくチャレンジしたい」部がある等生徒のニーズに幅広く対応できることにある。さらに女子では、女子にマッチした環境づくりも必要である。女子の指導者が増えつつあるが、さらに増やすことも1つの方法であると考えられる。

残念ながら、これらの条件に合うような運動部活動の運営は、現状では実施することができない。

また、今回のアンケート調査から、高校運動部は「生徒のやる気が高く・良い施設で豊富な練習内容を生徒が主体的に行っている」こと、また「先輩・後輩の上下関係が少なくアットホームである」ことが高校部活動の魅力として明らかになった。これらの高校運動部活動の魅力を前面に立てより発展させる。また同時にその魅力を再発信させていくことも望まれる。

## 6 おわりに

現在本県では、一部の学校を対象に統廃合が進み学校規模の拡大化が図られたところである。そこでは、多くの運動・文化部の種目が設置され、生徒ニーズに応えることができる環境になったといえるが、中・小規模校においては、多数の種目を全てカバーすることは到底無理な状況にあり、各学校の特色を優先にした運動部の設置になっているのが現状である。生徒のニーズの観点に立てば、地域限定の特殊な種目を除き、どこの高校にも部としてユニバーサルのサービス（どこの学校でも公平に受益）として最低限中学の運動部活動の種目が設置されることが部活動継続率の向上につながり、さらには運動部活動の魅力の拡大につながると考えられる。

しかしながら、生徒のニーズに応じた運動部活動の設置は、顧問となる教員の人的配置や指導者の確保等の問題から厳しい現実があり、運動部活動の活性化を目指した更なる取組みが求められる。今後も生徒の立場に立った運動部活動のあり方を模索しその魅力発信に努めるとともに、中体連、高体連それぞれの立場から見た運動部活動活性化についての情報交換会を継続して開催し、運動部活動の更なる発展につなげていきたい。